

# 高等学校 1 年生 保健体育科学習指導案

令和 6 年 12 月 12 日  
中学校・高等学校（ 1 ）年 30 名

## 1 単元名 大単元「 安全な社会生活 」 小単元（ 応急手当の意義とその基本 ）

### 2 単元について

個人及び社会生活において、様々な事故や災害が発生している。安全な社会を形成するには、事故等の防止に加え、発生に伴う傷害などを軽減することが重要である。そのためには、事故等も発生には人的要因及び環境要因が関わることを踏まえ、個人の取組みに加えて社会的な取組みが求められることを理解するとともに、危険の予測やその回避の方法を考えることが出来るようにする必要がある。

このため本内容は、様々な事故等の発生には人的要因や環境要因が関わること、交通事故などの事故の防止には、周囲の環境などの把握や適切な行動が必要であること、安全な社会の形成には、個人の安全に関する資質や形成、環境の整備、地域の連携などは必要であること、また、個人が心肺蘇生法を含む応急手当の技術を身に付けることに加え、社会における救急体制の整備を進める必要があることなどを中心に構成していく。

### 3 単元の目標

知識・技能	安全な社会生活について、事故の防止に加え、発生に伴う傷害などを軽減すること、またそのための社会的な取り組みの基礎的な事項及びそれらと生活とのかわりを理解することができるようにする。
思考力・判断力・表現力等	安全な社会生活について危険の予測やその回避の方法などの課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表現できるようにする。
学びに向かう力・人間性	安全な社会生活における健康の保持増進に関する課題の解決に役立つ環境と食品の保健、労働と健康に関する活動や対策について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組むとすることができるようにする。

### 4 生徒の実態と指導観

本学級の生徒の実態は明るく、男女ともに仲が良かったため授業内の反応があり、発言を求めたときは考えて発言をしている生徒が多い。そのため楽しい雰囲気で開催されていく。一方で、自分の考えを書き出すことは出来るが発表すること・人に伝えることを苦手としている生徒もいる。中学校

での保健の学習で得た知識が理解・定着している生徒と、そうでない生徒で分かれている。又本学級の生徒は部活動に所属している生徒が多いため、活動中に怪我を負ってしまい保健室で応急手当をすることがある。しかし怪我の状態を説明することは出来るが、怪我の状態に応じた応急手当を自分たちで実施出来る生徒は多くない。また、なぜ迅速な手当が必要なのかという意義を理解している生徒も多くない。そのため生徒にとって、新たな学びと経験になるような学習が必要である。

本学習の指導にあたって、目の前で倒れている人・怪我をした人がいた場合どのような応急手当が必要なのか、なぜ応急手当を行わなければいけないのかを考えさせる。また応急手当が実施されたことによってどれぐらいの人が助かったのかを知識として身につけさせる。実技評価を行うため、生徒一人ひとりが積極的に実習に取組み、応急手当の重要性や知識について学びを深める。

## 5 単元及び学習活動に即した評価規準

健康安全への知識・技能	健康安全についての思考力・判断力・表現力等	健康・安全について、主体的に学習する態度
<p>① 安全な社会生活づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組みが必要であること。また、交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備に関わること。交通事故には補償をはじめとした責任が生じることを理解している。</p> <p>② 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解しているとともに、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行う技能を身に付けている</p>	<p>①安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。</p>	<p>①安全な社会生活についての学習の主体的に取り組もうとしている。</p>

## 6 指導と評価の計画

時間	主な学習内容	知識	思・判・表	学び
1	事故の現状と発生要因			

2	安全な社会の形成			
3	交通における安全			
4	応急手当の意義とその基本 ・応急手当とは ・事故や災害に対応できる社会づくり ・安全の確認 ・反応の確認 ・呼吸の観察	②		
5	日常的な応急手当			
6	心肺蘇生法			

## 7 本時の展開

### ① 本時の目標

- ・応急手当の意義について説明できる。
- ・傷病者を発見したときに、確認・観察するポイントをあげることができる。

### ② 展開

段階	学習活動【 学習内容 】	指導上の留意点 ◇評価
導入 8分	1. 挨拶	○全員がそろったのを確認し、元気よく挨拶させる。
	2. 「皆さんは救急車を呼んだり・使ったことはありますか？」	○まだ教科書を開かないように指示を出す。 ○使ったことが「ある・ない」を挙手で聞く。 ○使ったことがある人になぜ利用したのかを聞く。 ○生徒の発言を繰り返し、全体に共有する。
	3. 救急車の出動率・搬送車数について ○令和6年の出動数763万7967件、搬送車数633万9959人。 出動車数約40万件増加、搬送車数約42万件増加	○出動しても搬送されない場合もある。 ○死亡者数も増えていることを伝え、死亡者数を減らす為に応急手当をする必要があることを伝える。
	<div>           発問1：なぜ救急車の出動車数が増えているのか？ </div>	
	自分の考えをワークシートに書く	○机間指導を行う。 ○挙手させ答えさせる。(約3人)

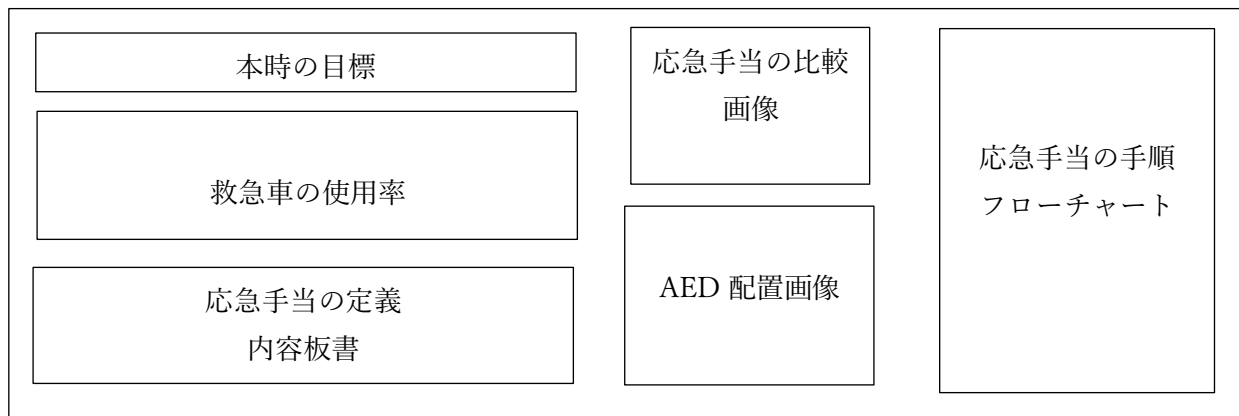
	<div data-bbox="268 235 762 499" data-label="Text"> <p>予想される生徒からの反応： 移動手段、自力で移動できない どうすればいいかわからない とりあえず呼ぶ、夜間、 いたずら</p> </div> <p>死亡者数 3935 人増加（4. 3%増加）</p> <p>4. 本時の目標を確認する。 ・応急手当とはの意義について説明できる。 ・傷病者を発見したときに、確認・観察するポイントをあげることができる。</p>	<p>○緊急性のない救急車の出動が増えている。 （交通手段がない、どこの病院に行けば良いかわからない） ○使わなくてもよい症状の場合は救急車の利用は避けるよう伝える。 ○迷惑利用のせいで助けが必要な人の元に救急車がたどり着かずに、命を落とす人もいることを知らせる。</p> <p>○本時学ぶ内容を伝え、学習理解を深めさせる。 ○なぜ応急手当を行わなければいけないのか。 ○応急手当の手順と見るべきポイントをしっかり理解させる。</p>
<p><b>展開</b> <b>32</b> <b>分</b></p>	<p>5. 【応急手当】</p> <div data-bbox="276 1099 1409 1171" data-label="Text"> <p>発問 2：死亡者を減らす為に自分達に出来ることはなにか？</p> </div> <p>ワークシートに自分の考えを書く。</p> <div data-bbox="260 1254 735 1406" data-label="Text"> <p>予想される生徒の反応： 応急手当、知識を学ぶ、心肺蘇生 A E D の使用</p> </div> <div data-bbox="252 1686 762 1939" data-label="Text"> <p>～理解する内容～ ・迅速かつ適切な応急手当は苦痛をやわらげる、医療機関における処置や治療の効果を上げる又、症状の悪化を防止出来ること。</p> </div>	<p>○ワークシートを配布する。</p> <p>○個人で考えさせる。（2分） ○机間指導を行い、いろいろな考えが出るようにさせる。 ○発表させる。（2～3人） ○生徒の発言を繰り返し、全体に共有する。 ○生徒から出た意見を説明していく。 ○AED（自動体外式除細動器：Automated External Defibrillator）（側注1）の普及：心臓が痙攣状態（心室細動）を起こしている人を助ける為に、体外から電気ショックを与えて、心臓の正常な動きを取り戻させることを目的としている。 AEDは、医療機器の中で唯一一般市民でも簡単な操作で行う事が出来る機械である。公共施設、駅、学校、病院など人が多く集まる場所に設置されている。 ○心肺蘇生法（C P R：Cardiopulmonary Resuscitation）：心臓や呼吸が止まった傷病者に対</p>

	<p>○画像1の応急手当をすることでどれだけの人が助かるのかを理解する。</p> <p><b>心肺蘇生法を行った場合 15.2%</b></p> <p><b>A E Dの使用で 53.2%</b></p> <p><b>約 7 倍の人が助かる。</b></p> <p><b>応急手当の意義を理解する。</b></p> <p>実際の A E Dの使用率は 4.3%しか使用されていない。</p> <p>6. 【事故や災害に対応できる社会づくり】</p> <p>○学校の AED がどこに置いてあるかを知る。(資料 1)</p> <p>○画像 2 を見る</p>	<p>して、胸骨圧迫と人工呼吸を行う事で、心臓と呼吸の動きを助ける方法のこと。</p> <p>○応急手当の意味を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・状態の悪化を防ぐ、痛みを和らげる。</li> <li>・医療機関における処置や治療の効果</li> <li>・突然の怪我や病気に対して、救急車が到着するまでの間に行う手当のこと。</li> <li>・応急手当は小学校三年生から出来る為、高校生にも出来る。</li> </ul> <p>○↑応急手当の意義について理解してもらえるように促す。</p> <p>○画像 1:心肺停止から応急手当を行わなかった場合、18 分後には助かる可能性は 0%に近い。</p> <p>○応急手当を行った場合、約 10%の命が助かる可能性がある。</p> <p>○実際の A E Dの使用率は 4.3%しか使われていない。</p> <p>○一次救命処置までが命を救うのに私たちに出来ること。</p> <p>○校内の AED 設置場所の画像を見せ、説明する。</p> <p>○1 つひとつについて細かく説明する。</p> <p>「心停止の予防」</p> <p>心停止になる前に、その初期症状に気づいて病院を受診したり、救急車を容易性すること。</p> <p>「早期認識と通報」</p> <p>突然倒れた人や、反応のない人を見たら、直ちに心停止を疑い、119 番通報を行う。</p> <p>「一次救命処置」</p> <p>心肺蘇生や AED</p> <p>「二次救命処置」</p>
--	--	---

	<p>○地域の応急手当講座を知る。</p> <p>7. 応急手当の手順を知る。(資料2)</p> <p>【安全の確認】</p> <p>○二次災害を防ぐ</p> <p>【反応の確認】</p> <p>○119番通報・AED</p> <p>【呼吸の確認】</p> <p>○胸・腹部の確認</p> <p>○胸骨圧迫・心肺蘇生法(P72)</p> <p>8. 実際に応急手当を体験する。役割分担を行う(一斉に行う)</p> <p>先生が実際に行っているのを見て、応急手当の適切な手順の理解を深める。</p>	<p>医師や救急救命士による薬剤投与、器具を用いた気道確保、心拍再開後を集中治療を実施。</p> <p>○学校の健康管理センターに行けば応急手当の方法やAEDの使用方法を教わることが出来る。</p> <p>東京消防庁(立川消防署)で予約したr講座を受けられる。団体でも受けられるので、部活などで申し込んで見てもよい。</p> <p>○教科書P69を開き、資料2を見るように指示する。</p> <p>○フローチャートで学ばせる。</p> <p>○一つ一つ上から説明理解させる。</p> <p>○周囲の確認を行い二次被害を防ぐ。</p> <p>○意識の確認</p> <p>「大丈夫ですか!」などで声をかける。</p> <p>○反応がなければ、大声で助けを呼び、119番通報とAEDを持ってきてもらう。</p> <p>→119番通報の行い方・教科書p200を見るように指示を出す。</p> <p>○反応があったら、訴えを聞きそれに応じた手当を行う。</p> <p>○反応がない場合は、傷病者を仰向けに寝かせ呼吸の状態の確認を行う。</p> <p>→胸や腹部の動きを観察する10秒以上かけない。</p> <p>→10秒観察しても判断に迷う場合は呼吸がないものと判断する。心臓が止まった後にしゃっくりのような呼吸(死戦期呼吸)を見せたら、呼吸なしと判断する。</p> <p>○呼吸がない場合には、直ちに胸骨圧迫を行う。</p> <p>○胸骨圧迫や人工呼吸のやり方は次回説明する。</p> <p>○説明のあと、教員が自ら実践して、やり方を見せる。</p>
--	--	---

	<p>お互いの班の実習の様子をチェックする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. AED を持ってくる</li> <li>2. 救急車を呼ぶ</li> <li>3. 安静な体位に移す</li> </ol> <p>9. グループ同士で意見交換を行う ワークシートに記入する。</p>	<p>○3人1グループをつくり、前後のグループで評価し合う。</p> <p>○AED や胸骨圧迫のやり方は次回指導する。</p> <p>○わからないことがあったら教科書を参考にしたり、周囲の友達、先生に聞くように促す。</p> <p>○巡回し各班ごとに良いところ、よりよく出来るところを伝える。</p> <p>◆〈A 評価とするポイント〉</p> <p>応急手当がなぜ大切なのかの意義や適切な応急手当の方法について理解したことを言ったり書いたりすることが出来る。</p> <p>〈C 評価とするポイント〉</p> <p>応急手当の意義や正しい手順が理解出来ていない。</p> <p>〈努力を要する生徒の手立て〉</p> <p>応急手当の場面で必要なことは何かを考えさせる。教科書を参考にしたり、仲間と一緒に学習を振り返りを促したり、自分に置き換えたときにどうすべきなのかを想起するように促したりして、個別に説明する。</p>
ま と め  10 分	<p>10. 応急手当の意義や実際に応急手当を行ってみて、「今後自分自身がそのような場面に遭遇したらどのような行動を取るのか」をワークシートに書く。</p> <p>11. 発表</p> <p>12. 授業の振り返る</p> <p>13. 次回の内容を伝える</p> <p>14. 挨拶</p>	<p>○ワークシートに書くように促す（3分）</p> <p>○全員が書けているか机間指導を行う。</p> <p>○発表してくれた生徒一人ひとりにフィードバックを行う。</p> <p>○全員が躊躇しないで率先して人助けできるようになってほしいと声をかける。</p> <p>○ワークシートかき終わった生徒から提出するよう促す。</p> <p>○最後の挨拶も元氣に行う。</p>

## 8 板書計画

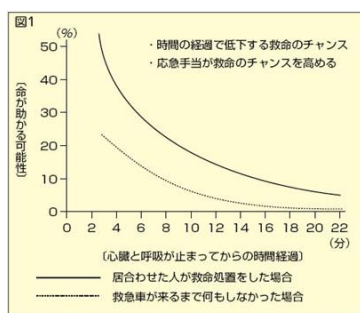


## 9 資料

教科書 p 68、69、72、200

資料 1 (校内マップ)

### 救命曲線 (画像 1)



Holmberg M et al. Effect of bystander cardiopulmonary resuscitation in out-of-hospital cardiac arrest patients in Sweden. Resuscitation 47:59-70, 2000. より、一部改変して引用

### 救命の連鎖(チェーン・オブ・サバイバル)の重要性(画像 2)

